

農業分野での抗菌剤の使用実態把握及び細菌性病害の総合防除の推進に関する研究

ポイント！

- ▶ 細菌性病害については、気候変動による被害の増大も示唆されるところ、使用可能な農薬の少なさや薬剤抵抗性の発達等による防除の困難さがあり、化学農薬（抗菌剤）のみに依存しない、**発生予防を中心とした総合防除の推進が必要**。
- ▶ 国際的な動向を注視しつつ、「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」（平成28年4月5日関係閣僚会議決定）に基づき、国内での**農業分野における抗菌剤の使用実態の把握に取り組む必要**がある。

現状・課題

- ・気候変動を背景として、**病害虫のまん延リスク（発生量の増加、分布域の拡大、発生時期の早期化等）が高まっている**。また、薬剤抵抗性の発達により、農作物の損害の発生抑制が困難な事例が報告されている。
- ・細菌性病害については、抗菌剤の使用を含む防除体系が確立・普及している一方、使用可能な農薬の少なさや薬剤抵抗性の発達等による防除の困難さがある。
- ・「みどりの食料システム戦略」に掲げた化学農薬使用量（リスク換算）の低減を図るためにも、改正植物防疫法に基づき、発生予防を中心とした総合防除の推進が必要。
- ・また、医療や畜水産分野ではワンヘルス・アプローチの考えに基づき国際的に薬剤耐性（AMR）への取組が進められており、農業／植物衛生分野についてもFAOを中心とした議論が進められようとしている。
- ・このような現状のもと、薬剤耐性（AMR）対策の観点から、国内における**農業分野での抗菌剤の使用実態を把握**するとともに、細菌性病害の防除対策の観点から、**薬剤感受性検定手法の改良、抗菌剤だけに頼らない総合防除体系の確立が必要**。

必要な研究

1. 農業分野における抗菌剤の使用実態の把握

- ① 各成分別に、主要な使用産地並びに対象作物及び対象病害を調査
- ② 抗菌剤使用に係る指標策定に向けた考え方の検討・整理

2. 薬剤耐性化に係る情報収集等、感受性検定手法の改良

- ① 薬剤耐性化について文献等による情報収集・整理、収集した菌株による検定解析の実施
- ② より高精度な、又は、多検体を迅速かつ同時に検定可能な検定手法の検証・開発

3. 細菌性病害に対する総合防除の推進に係る研究

軟腐病、モモせん孔細菌病、稲もみ枯細菌病等を対象に、主要産地における耐性菌の発生状況の確認や、予防・判断・防除措置に係る技術の検討、有効性の調査を実施

研究成果の活用

- ・薬剤耐性（AMR）対策アクションプランにおける「動向調査・監視」目標に対する取組内容への反映や、国際的な動向（抗菌剤の利用に関するガイドラインの検討等）に対する情報提供を実施。
- ・**発生予察事業の調査実施基準への反映**や、予算事業の活用による**都道府県での防除体系の策定、産地での実証・導入支援**を実施。